



ぐんまグローバルセミナー2024

令和7年2月8日（土）、本研究会とJICAとの共催でぐんまグローバルセミナー2024が、群馬県生涯学習センターで開かれました。雪が舞うほどの寒気に見舞われた中、県内各地から多くの参加者がありました。今回は、JICA海外協力隊としてバングラディッシュに派遣予定だった（バングラディッシュの国内情勢により東京で研修を実施）田中先生と清水先生、パラグアイに派遣された根岸先生、イスラマバード日本人学校（パキスタン）に3年間派遣され昨年度末で帰国した飯塚先生、同じくメルボルン日本人学校（オーストラリア）に派遣されていた小林先生の発表がありました。会の後半には、それぞれの活動に興味のある先生方との個別相談会がありました。

冒頭のあいさつにおいて、石原会長は、会の趣旨に賛同していただける方や派遣を希望している先生も本研究会に入会できることの紹介、JICAと共催であり、両方の実践を聞けることを今後の実践に生かしてほしい、後半の個別相談会もうまく活用してほしいと話しました。また、JICA群馬デスクの佐々塚さん、JICA東京の三井さんから今回の発表者の紹介とJICAの開発教育支援事業の主旨説明がありました。



JICA海外研修及び授業実践報告会

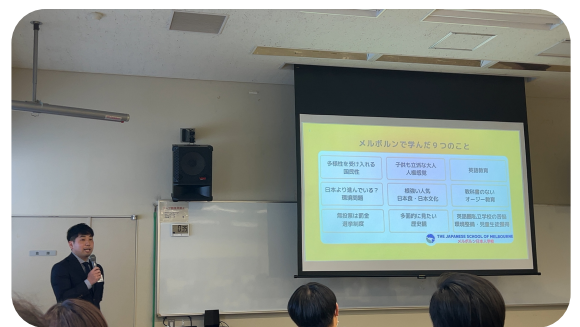
バングラディッシュに派遣予定だった田中先生と清水先生は、国内代替研修と研修をもとにした授業実践を紹介しました。代替研修では、講義を受けたりバングラディッシュ料理を作ったり、東京在住の方から話を聞いたりしたのだそうです。田中先生は小学4年生の総合での実践、清水先生は高校の英語での実践紹介でした。清水先生は、ファストファッションが引き起こす環境問題という内容で実際の授業を披露しました。パラグアイに派遣された根岸先生は、知識構成型ジグソー法を使った高校の英語の実践を紹介しました。パラグアイに関する資料を読み取り、担任の友人にパラグアイを勧める手紙を英語で書くことをゴールに設定した内容を紹介しました。

帰国教師実践報告会



パキスタンに派遣された飯塚先生の発表は、小1～中3まで12人しかいない小規模校での経験から始まりました。専門教科は英語ですが、担当教科が多岐に渡る3年間だったようです。礼拝、豚肉・アルコールの禁止、肌の露出（女性）やラマダンなどのイスラム教の文化に慣れる必要があり、識字率の低さや学校に通うことができない子供、経済の問題、環境が整っていない学校といったパキスタンが抱える問題を目の当たりにしたとのこと。特に情勢が不安定なことから、毎日24時間学校にはガードマンがおり、児童生徒の登下校は保護者の送迎、避難訓練は爆破予告やテロリストを想定した訓練を行うということに驚きの声が漏れていました。渡航前は知らないことに対する恐れがあったが、知ることや経験することで現地の生活に慣れていったという話は、すべての派遣国に言える大事なマインドかもしれません。

小林先生は、世界で最も住みやすい都市に選ばれたことのあるメルボルン（オーストラリア）へ派遣されました。とてもおおらかで年寄りや子供に優しい現地の人々に感銘を受けたようです。南半球にあることから、現地の太陽や星の動き、日本と季節が真逆であることと日本の学習内容を同時に学ぶことや、オーストラリアの立場から戦争に関わる歴史教育など、さまざまな面から深く学ぶ姿を日本でも生かしていきたいと話していました。帰国後は、総合的な学習の時間において、オーストラリアの環境への取り組みを紹介し、日本の環境問題を解決するための単元を設定したり、英語の授業では、現地での生活の経験から、さまざまなスキルが身に付くように指導したりしているそうです。



個別相談会の後、参加者全員で写真を撮りました。今年度も多くの先生方にご参加いただきまして、ありがとうございました。来年度の実践報告会もよろしくお願いいたします。

